

1 評価目的

- ・「事業の実施状況の確認」、「目標達成状況」等の評価を行うことによって、より効果的、効率的に運行されることを目的とする。

2 評価の流れ

日程	平成29年6月18日 (愛知県バス対策協議会)	平成31年1月10日 (愛知県バス対策協議会)	平成31年2月22日 (国による第三者評価委員会)
対象路線	幹線系統補助路線	幹線系統補助路線	国庫補助対象路線
実施内容	計画申請	一次評価 (自己評価)	二次評価 (有識者による第三者評価)

※・地域バス補助路線については、平成30年12月14日の第3回豊田市公共交通会議にて評価を実施済。

- ・豊田市内を走る、名鉄バス(株)自主路線についても愛知県バス対策協議会にて評価を実施済。

3 平成30年度 豊田市地域間幹線系統 国庫補助対象路線の評価 (平成29年10月～平成30年9月)

【第2回愛知県バス対策協議会(平成31年1月10日)における一次評価】

系統	収支率	利用者 (目標)	利用者 (実績)	状況	考察と今後の改善	国庫補助金額
藤岡・豊田線 (加納経由)	32.8%	100,429人	102,284人	達成	・通学利用者増等より目標達成 ・観光地(猿投山)と連携した利用促進を展開	6,537,500円
小原・豊田線	50.5%	194,071人	199,638人	達成	・観光対応展開等により利用者増 ・バス停増設、上屋整備など利便性向上を推進	19,209,500円
藤岡・豊田線 (西中山経由)	62.0%	116,090人	117,354人	達成	・宅地開発による沿線人口増で利用者が増加 ・ダイヤ改正、区画整理に伴う路線改編を検討	7,207,000円
旭・豊田線	26.5%	82,452人	91,817人	達成	・通学利用増等により目標達成 ・広瀬乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を検討	16,569,500円
さなげ・足助線	29.2%	193,047人	196,064人	達成	・通学利用増等により目標達成 ・広瀬乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を検討	18,129,000円
下山・豊田線	50.8%	133,010人	137,257人	達成	・近年利用者の伸びが低下傾向 ・松平郷など観光地と連携した利用促進を展開	10,195,500円
高岡ふれあい 路線②	26.1%	133,380人	119,839人	未達	・通勤利用減などで目標未達成 ・渋滞を考慮したダイヤ改正を検討	8,369,000円

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月10日

協議会名: 豊知県バス対策協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況							⑥複数市町村を跨ぐ系統・幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)		
						【計画目標指標・利用者数】 A:達成 B:未達成	輸送量(人)				収支率(%)					
							H30計画	H30実績	平均乗車量	運行回数	H29実績	H30実績				
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間													
豊田市	名鉄バス株	12	おいでんバス(旭・豊田線)	小渡～豊田市 【公有民営方式車両購入資 庫補助金の交付対象】(2台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実績の把握を行った。また、沿線のやなでの飲み物サービスを実施し、利用促進に努めた。名鉄バス東山線住宅線廃止意向に対して、本路線の路線改編を検討をした。	台風の影響等による運休があったが、その他は所定の事業計画とおりの運行が実施されている。 《台風による運休》 H30/9/4:2本運休 H30/9/5:部分運休 H30/9/30:9本運休 老朽化した車両(中型2台)の買い替えをした。	A	目標:82,452 実績:91,817(111.4%) ※前年度比:104.8%	45.7	33.7	3.1	10.9	25.8	26.5	豊田市と旧旭町を跨ぐ利用者は、1日平均35人で全体の10.5%と低い数値にとどまっているものの、「豊田市」への乗降が多く、市郊外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、「広瀬」での乗降も一定数あり、バスを乗り継いで利用していることも窺える。 《地域的・フィーダー的系統》 旭地域バス、小原地域バス、石野地域バス、藤岡地域バス	本路線は様々な観光施設や豊かな自然環境を有する地域を運行しており、こうした環境を生かした利用促進策を講じる必要がある。 広瀬バス停での乗り継ぎを考慮したダイヤ改正の検討、沿線やなでの飲み物サービスを経営実施、バスを活用した沿線ガイドブックの作成に取り組んでいく。
		13	おいでんバス(小原・豊田線)	上仁木～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実績の把握を行った。また、沿線観光地のイベント等に合わせたダイヤの増便等利用促進に努めた。	台風の影響等による運休があったが、その他は所定の事業計画とおりの運行が実施されている。 《台風による運休》 H30/9/4:5本 H30/9/30:9本 《積雪による部分運休》 H30/1/25	A	目標:194,071 実績:199,638(102.9%) ※前年度比:99.4%	77.7	80.0	6.9	11.6	50.5	50.5	豊田市と旧小原村を跨ぐ利用者は、1日平均54人で全体の16.2%と低い数値にとどまっているものの、「加茂丘高校前」、「梅坪駅」、「四郷」及び「豊田市」バス停での乗降が多く、市郊外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。 《地域的・フィーダー的系統》 小原地域バス、藤岡地域バス	上仁木～加茂丘高校間は利用者が少なく、平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、鉄道駅への接続(愛知環状鉄道梅坪駅)を視野に入れた経路の検討をしていく。また、小原四季桜まつりに対応した期間限定のダイヤ設定など利便性向上に努める。加えて、「加茂丘高校前」バス停に上屋設置を検討する。
豊田市	名鉄バス株	14	おいでんバス(藤岡・豊田線(西中山経由))	藤岡中学校前～西中山～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実績の把握を行った。また、四郷地区区画整理に対応した経路及びバス停上屋の設置の検討を行った。この他、交通結節点となる藤岡支所の整備を実施した。	台風の影響等による運休があったが、その他は所定の事業計画とおりの運行が実施されている。 《台風による運休》 H30/9/4:1本 H30/9/30:1本	A	目標:116,090 実績:117,354(101.1%) ※前年度比:102.7%	45.6	48.6	6.4	7.6	58.6	62.0	豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、1日平均314人で全体の68.6%を占めている。「加茂丘高校前」、「梅坪駅」、「四郷」及び「豊田市」バス停での乗降が多く、市郊外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。 《地域的・フィーダー的系統》 藤岡地域バス	平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、鉄道駅への接続を視野に入れた経路の検討をしていく。また、四郷地区区画整理に対応した路線の検討を継続して進める。加えて、「加茂丘高校前」バス停に上屋設置を検討する。
豊田市	豊栄交通株	49	おいでんバス(さなげ・足助線)	豊田厚生病院～百年草	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実績の把握、車両の大型化について検討を行った。平成30年4月から増便し、特定バス停における朝の乗りこぼしを解消した。また、沿線のやなでの飲み物サービスを実施し、利用促進に努めた。	台風の影響等による運休があったが、その他は所定の事業計画とおりの運行が実施されている。 《台風による運休》 H30/9/4:4本 H30/9/30:12本	A	目標:193,047 実績:196,064(101.6%) ※前年度比:100.2%	76.6	79.8	4.9	16.3	49.9	29.2	豊田市と旧足助町を跨ぐ利用者は、1日平均315人で全体の44.2%を占めている。中山間地域から豊田市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。近年では豊田市中心部から足助地区の高校へ通学する利用者也増えている。 《地域的・フィーダー的系統》 (豊田市)保見地域バス、(豊田市)石野地域バス、(豊田市)足助地域バス、(みよし市)きんさんバス	沿線高校生の利用が特定便に集中することによる乗りこぼし及び観光シーズンの利用者集中による乗りこぼしが発生している。車両大型化に向けて関係機関との調整を引き続き進めていくとともに、ダイヤ改正等による利便性の向上を図る。また、各駅深ややなどの観光地と連携した利用促進を図る。加えて、「浄水駅北」バス停に上屋設置を検討する。
豊田市	豊栄交通株	50	おいでんバス(下山・豊田線)	大沼～豊田市 【公有民営方式車両購入資 庫補助金の交付対象】(2台)	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実績の把握を行った。また、名鉄バス九久平線廃止意向に対して、本路線の路線改編を検討をした。	台風の影響等による運休があったが、その他は所定の事業計画とおりの運行が実施されている。 《台風による運休》 H30/9/4:4本 H30/9/30:7本 老朽化した車両(大型2台)の買い替えをした。	A	目標:133,010 実績:137,257(103.2%) ※前年度比:101.7%	61.4	67.2	5.8	11.6	50.7	50.8	豊田市と旧下山村を跨ぐ利用者は、1日平均181人で全体の33.2%を占めている。豊田市郊外の「竜崎」バス停から豊田市駅への移動が顕著であり、通勤・通学手段として利用されていることが見受けられる。 《地域的・フィーダー的系統》 (豊田市)下山地域バス、(豊田市)松平地域バス、(豊田市)水源東バス	近年利用者の減少傾向がみられるため、通勤・通学等の日常利用以外の観光目的での利用を促進していき、利用者の増加を目指す。沿線の松平郷などの観光地と連携した利用促進を図る。
豊田市	豊栄交通株	51	おいでんバス(藤岡・豊田線(加納経由))	藤岡支所～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実績の把握を行った。また、交通結節点となる藤岡支所の整備を実施した。	台風の影響等による運休があったが、その他は所定の事業計画とおりの運行が実施されている。 《台風による運休》 H30/9/4:4本 H30/9/30:8本	A	目標:100,429 実績:102,284(101.8%) ※前年度比:103.5%	40.6	45.2	4.0	11.3	32.2	32.8	豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、1日平均140人で全体の40.1%を占めている。市郊外から市中心部への通勤・通学手段としても利用されており、昼間帯においても、豊田市郊外から市中心部への利用が一定数見られることから、生活交通として重要な役割を果たしていると考えられる。 《地域的・フィーダー的系統》 藤岡地域バス	平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、地域商センター、猿投神社及び猿投山の登山口など沿線施設や観光地と連携した利用促進策の検討を図る。また、バスを活用したウォーキングコースマップの作成に取り組んでいく。
豊田市	高岡ふれあいバス 共同体	58	高岡ふれあいバス(路線2)	上丘町～知立駅	前林地域の全戸アンケート結果等を踏まえ、土曜駅又は豊田市中心部への延伸、基幹バス化などについて検討を進めた。また、豊田市、運営協議会及び運行事業者と協同で、前林ふれあいまつりにおいてPRブースを出展し、利用促進に努めた。沿線市においても、本路線の情報を市内のバスガイドに掲載し、周知を図った。	台風の影響等による運休があったが、その他は所定の事業計画とおりの運行が実施されている。 《台風による運休》 H30/9/4:6本 H30/9/30:7本	A	目標:133,380 実績:119,839(89.8%) ※前年度比:96.1%	48.9	41.7	2.9	14.4	36.6	26.1	市を跨ぐ利用者は、1日平均309人で全体の4.1%と少数を占めている。通勤・通学や通院・買い物等の手段として重要な役割を果たしていると考えられる。 《広域的・幹線的系統》 名古屋鉄道、(豊田市)高岡ふれあいバス、(知立市)ミニバス	土曜駅又は豊田市中心部への延伸や基幹バス化の方向性の検討を始め、道路渋滞等の現状を踏まえた遅れの少ないダイヤの設定に向けた検討等を行う必要がある。また、沿線市・事業者と情報共有を図りながら、本路線の周知等に努める。